

食品ロスに関するアンケート調査結果（第四回）

ハウス食品グループ本社では、「食品ロスの削減の推進に関する法律（以下、略称：食品ロス削減推進法）」が公布後・施行前だった 2019 年 7 月から、お客様（ハウス食品グループ本社の会員サイト登録者）に向けて「食品ロス」に関するアンケート調査を実施しています。

2021 年 9 月に四回目となるアンケート調査を実施しました。

1. 目的

「食品ロス削減の認知率」・「家庭における食品ロスの実態」を知り、食に携わる企業として、食品ロス削減の取り組みや発信に繋げる。

継続的に調査を実施することで、食品ロスの認知率や実態の変化を把握していく。

2. 対象

ハウス食品グループ本社の会員サイトに登録いただいているお客様

有効回答数 7,576（全国 10～90 代男女、性別：男性 2,007、女性 5,156、不明 413）

3. アンケート実施期間

2021 年 9 月 3 日～9 月 8 日（第一回：2019 年 7 月 2 日～7 月 8 日、

第二回：2020 年 6 月 29 日～7 月 6 日第三回：2021 年 1 月 22 日～1 月 29 日）

4. 方法

インターネット調査

5. 調査項目

Q1.食品ロス（フードロス）をご存じですか？（単一選択*以下略称：SA）

Q2.食品ロス（フードロス）が「事業系」と「家庭系」に分けられることをご存じですか？（SA）

Q3.食品や食材を捨ててしまう頻度を教えてください（SA）

Q4.捨ててしまいがちな食品・食材を教えてください（複数選択*以下略称：MA）

Q5.最近捨ててしまった食品・食材を具体的に教えてください（自由回答*以下略称：FA）

<以下設問には、子どもの方に回答いただきました> 有効回答数：2,114 18 歳以下：1,768

Q6. お子さまは、SDGs のことをご存じですか？（SA）

Q7. お子さまは、「食品ロス（フードロス）」という問題をご存じですか？（SA）

6. その他・補足

百分率（%）は小数点第二位で四捨五入し、小数点第一位までを算出しました。

*百分率の合計値が 100%とならない場合がございます。

*年代・性別が不明だった 457 名は、年代別のデータからは除外しました。

* Q4・Q5：食品・食材の回答で「無し」「特に無い」等は、順位から除外しました。

データの 無断利用 はご遠慮ください。

【データの転載・利用についての問い合わせ先】

ハウス食品お客様相談センター <https://housefoods.jp/inquiry/index.html>

TEL：0120-50-1231（土・日・祝日を除く *受付時間は上記 URL から確認願います）

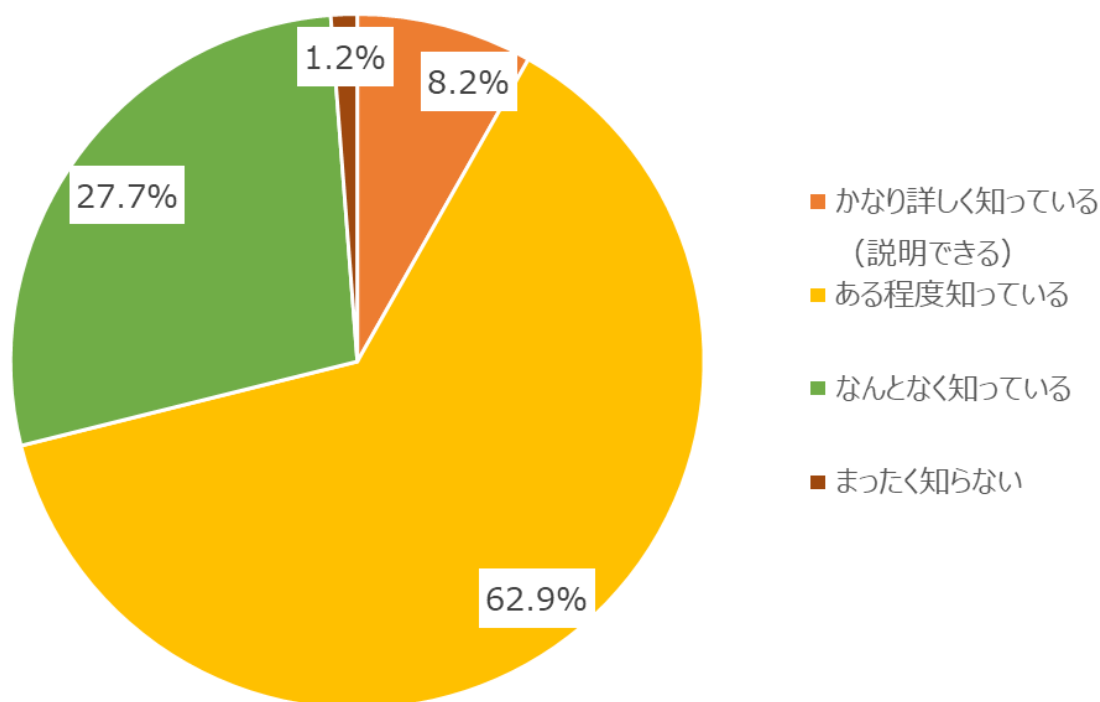
【調査結果】

1-1.食品ロス問題の認知率（知っている割合）

食品ロスについての認知率については、「ある程度知っている」以上の回答が71.1%、「なんとなく知っている」を加えると98.8%となり、いずれも過去最高の率になりました。食品ロス削減推進法の施行や食品ロスに関わるニュース、省庁や自治体の発信など、情報や話題の総量が増えたことに伴い、認知も上がっていると推測します。

グラフ 1-1.食品ロス問題の認知率

SA、n=7,576



【過去比較】1-1.食品ロス問題の認知率（知っている割合）の増減

調査の回を追うごとに「まったく知らない」「何となく知っている」という方の割合が減少し、「知っている」「ある程度知っている」と回答された方の割合が増加するという傾向が続いています。単に「食品ロス」という言葉だけでなく、意味の理解やどのようにして減らしていくかについても、浸透が進んでいると思われます。

【過去比較】1-1.食品ロス問題の認知率の増減 SA、n 数は下表に記載

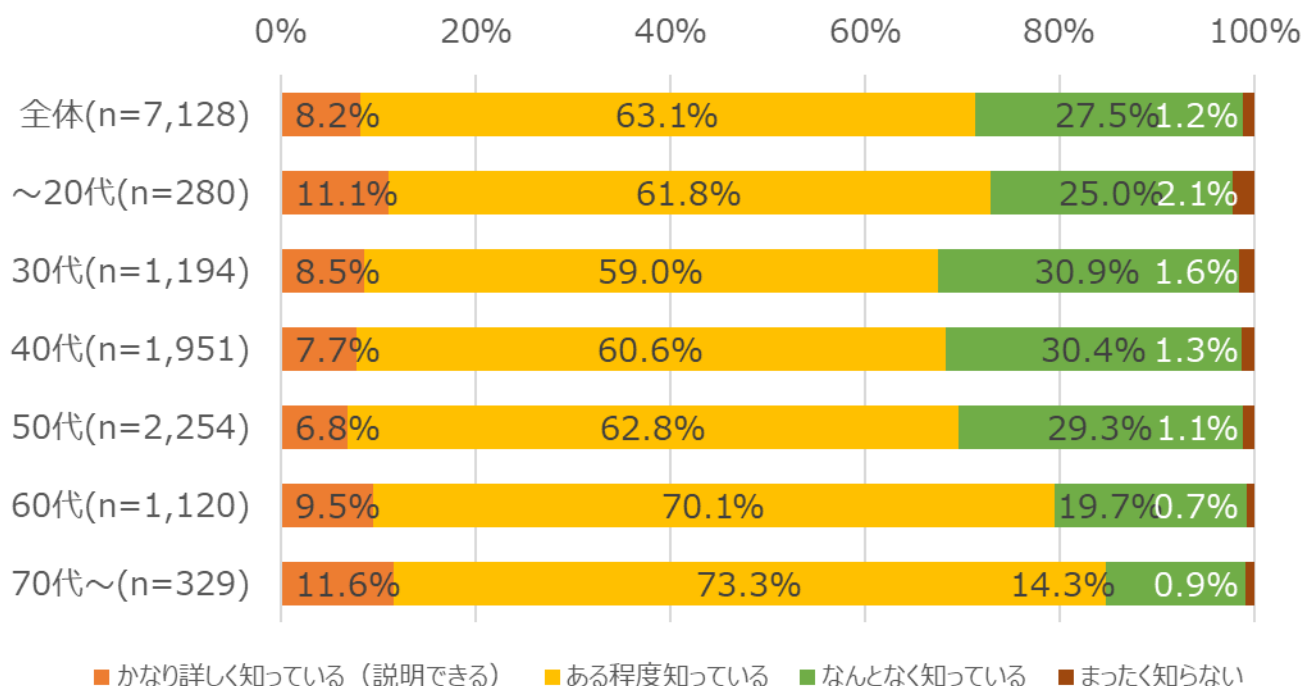
	2021年9月 n=7,576	2021年1月 8,979	2020年7月 6,990	2019年7月 6,357	2021年9月－ 2019年7月増減
かなり詳しく知っている（説明できる）	8.2%	6.5%	6.0%	4.9%	3.3%
ある程度知っている	62.9%	59.1%	57.4%	45.7%	17.2%
なんとなく知っている	27.7%	32.4%	34.0%	39.5%	-11.9%
まったく知らない	1.2%	2.0%	2.7%	9.9%	-8.6%

1-2.食品ロス問題の認知率（年代別）

食品ロス問題を「知っている」割合は、年代が高くなるほど増加し、「まったく知らない」割合は年代が高くなるほど減少するという傾向が出ています。

グラフ 1-2.食品ロス問題の年代別認知率

SA、n=7,128

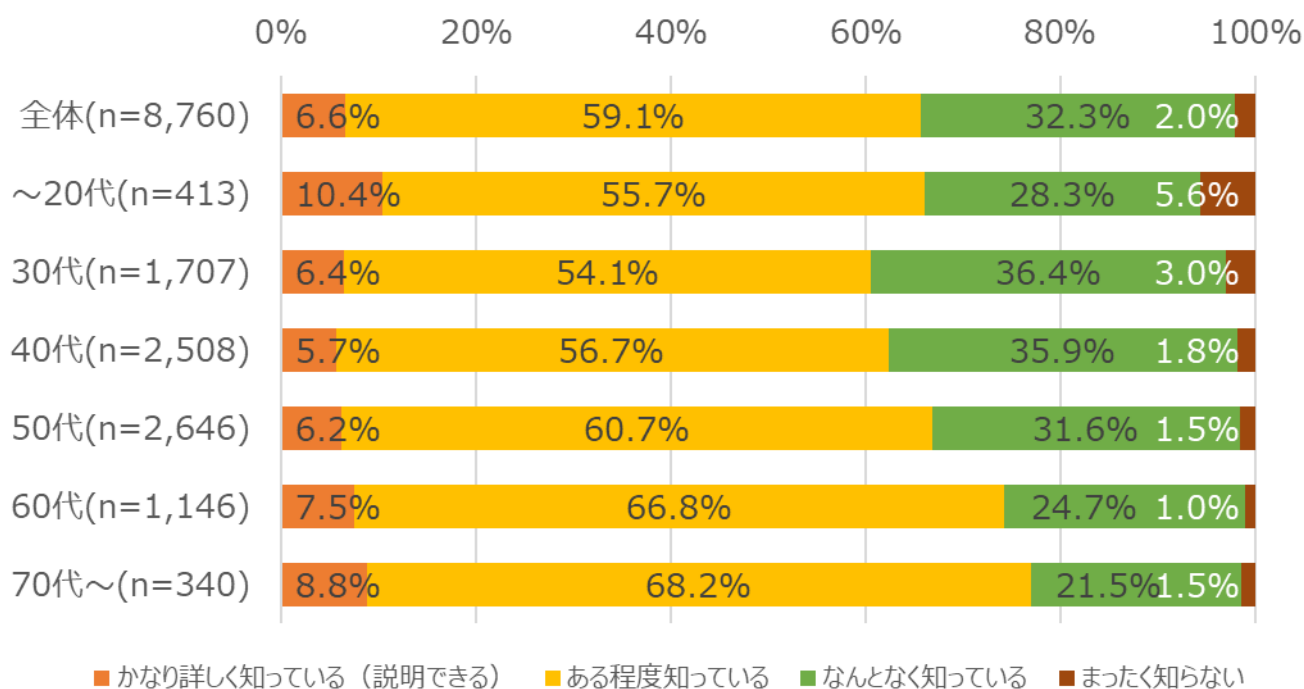


【前回】1-2.食品ロス問題の認知率（年代別）

「知っている」割合は、年代が高くなるほど増加し、「まったく知らない」割合は年代が高くなるほど減少する傾向で、第一回の調査から同じ傾向が続いていました。20代以下の「知っている」割合が高い点は前回・今回とも共通しており、若年層は二極化していると考えています。

【前回】グラフ 1-2.食品ロス問題の年代別認知率

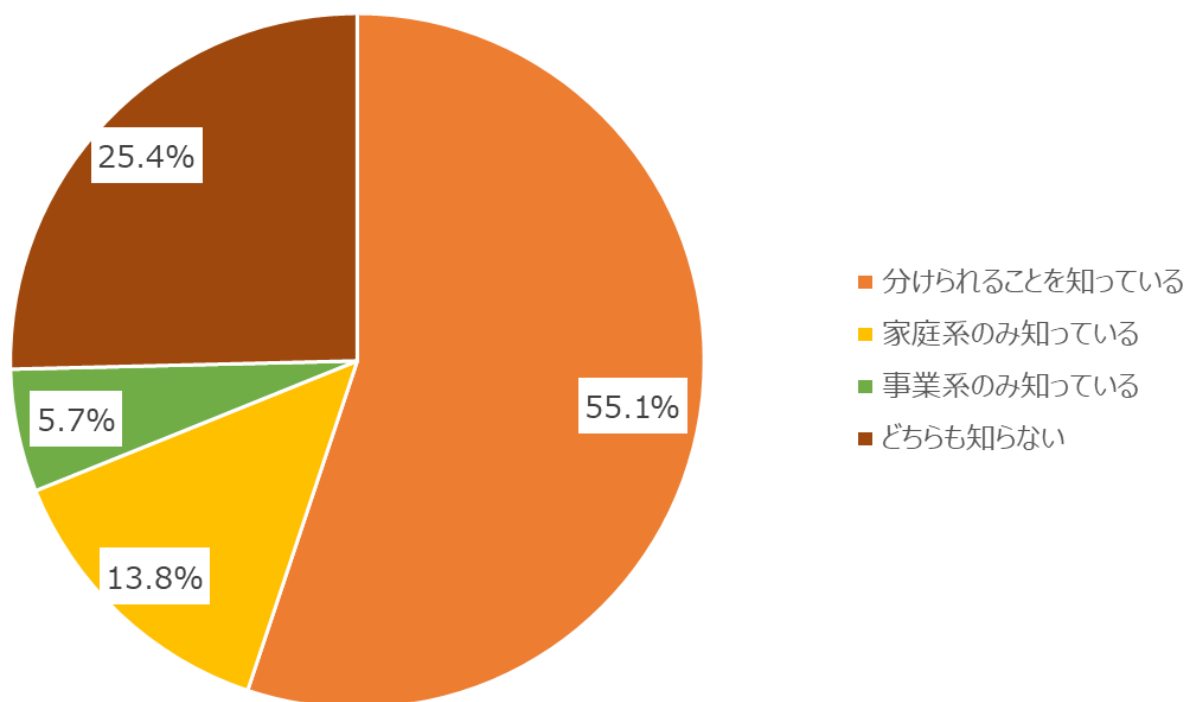
SA、n=8,760



2-1.食品ロス問題（内訳）の認知率

食品ロスが事業系と家庭系に分けられることを知っているかという問いに対し、「知っている」と回答した方は 55.1%いらっしゃり、初めて過半数を超えた前回調査よりも 3.8%増えました。「家庭系のみ知っている」が 13.8%で、「事業系のみ知っている」が 5.7%、「どちらも知らない」と回答された方が 25.4%となりました。食品ロス問題の内訳についての認知・理解については、少しずつですが継続的に広がっていると考えられます。

グラフ 2-1.食品ロス問題（内訳）認知率 SA、n=7,576



【過去比較】2-1.食品ロス問題（内訳）の認知率増減

調査の回を追うごとに「知っている」と回答された方の割合が、増加しています。「事業系のみ知っている」と回答された方の割合は調査を重ねるごとに減少しており、食品ロス問題は事業だけではなく、家庭でも発生しているということが知られるようになってきていると推測します。しかしながら「家庭系のみ知っている」割合も増えてきているため、食品ロス問題を正しく知っていただく必要があると考えています。

【過去比較】2-1.食品ロス問題（内訳）認知率増減

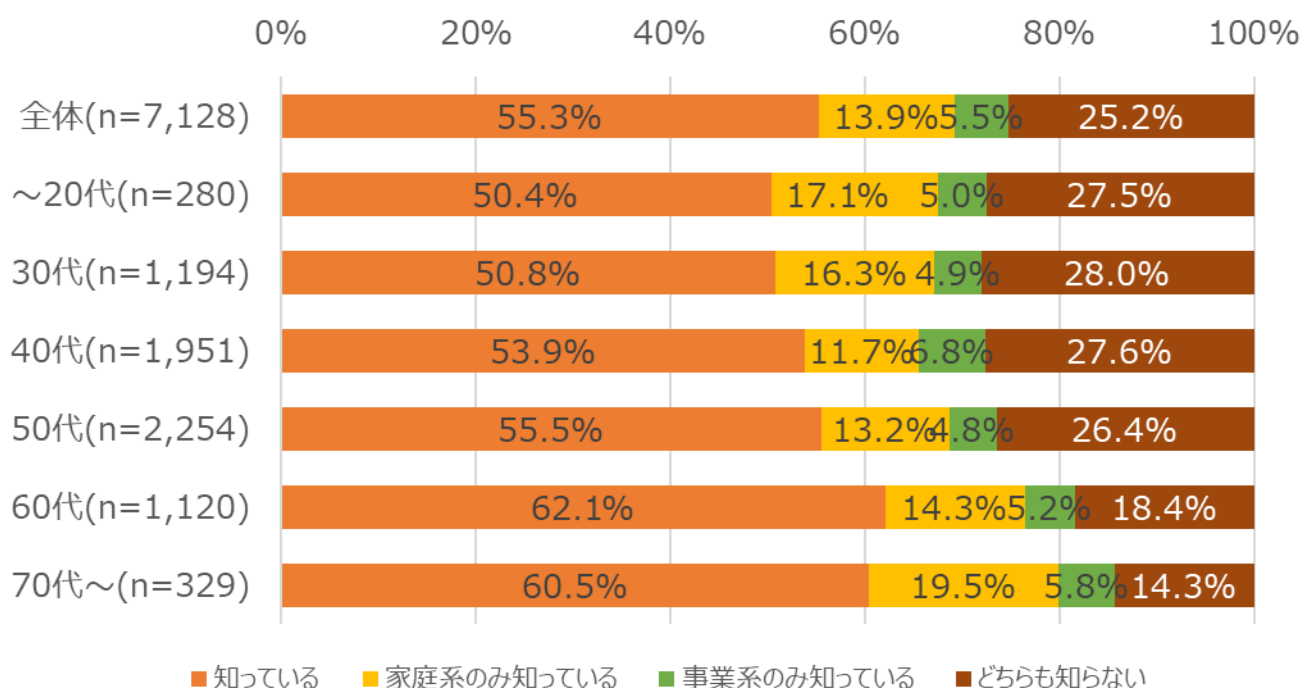
SA、n 数は下表に記載

	2021年9月 n=7,576	2021年1月 8,979	2020年7月 6,990	2019年7月 6,357	2021年9月－ 2019年7月増減
知っている	55.1%	51.3%	46.5%	48.0%	7.1%
家庭系のみ知っている	13.8%	11.3%	11.7%	8.3%	5.5%
事業系のみ知っている	5.7%	8.7%	11.2%	14.8%	-9.1%
どちらも知らない	25.4%	28.7%	30.7%	28.9%	-3.5%

2-2.食品ロス問題（内訳）の認知率（年代別）

全体の認知は上がり、年代が上がるほど食品ロスが「家庭系」と「事業系」とに大分されるということを「知っている」方の割合も増える、という傾向です。

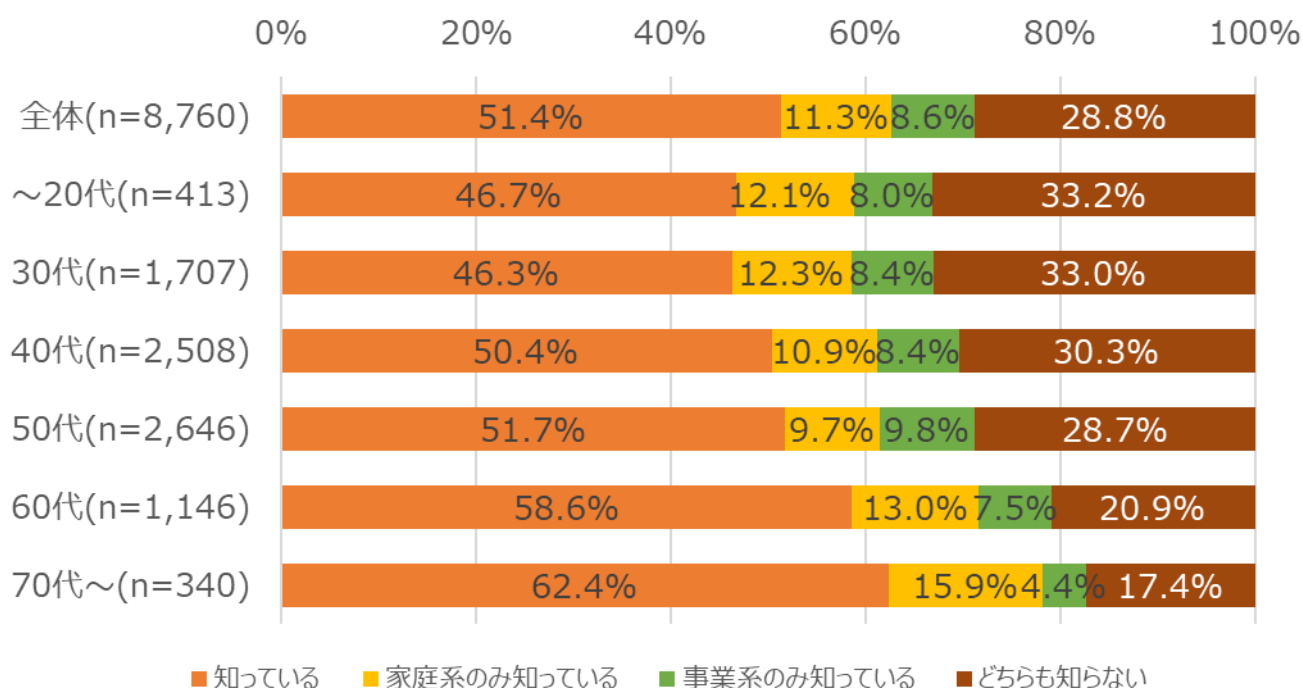
グラフ 2-2.食品ロス問題（内訳）年代別認知率 SA、n=7,128



【前回】2-2.食品ロス問題（内訳）の認知率（年代別）

家庭系・事業系と大分されることの認知率は、年代が上がるほど高くなる点は前回も同じ傾向でした。日常生活に近い食品ロス問題は、年代を問わず認知・理解が進んでいると推測します。

【前回】グラフ 2-2.食品ロス問題（内訳）年代別認知率 SA、n=8,760

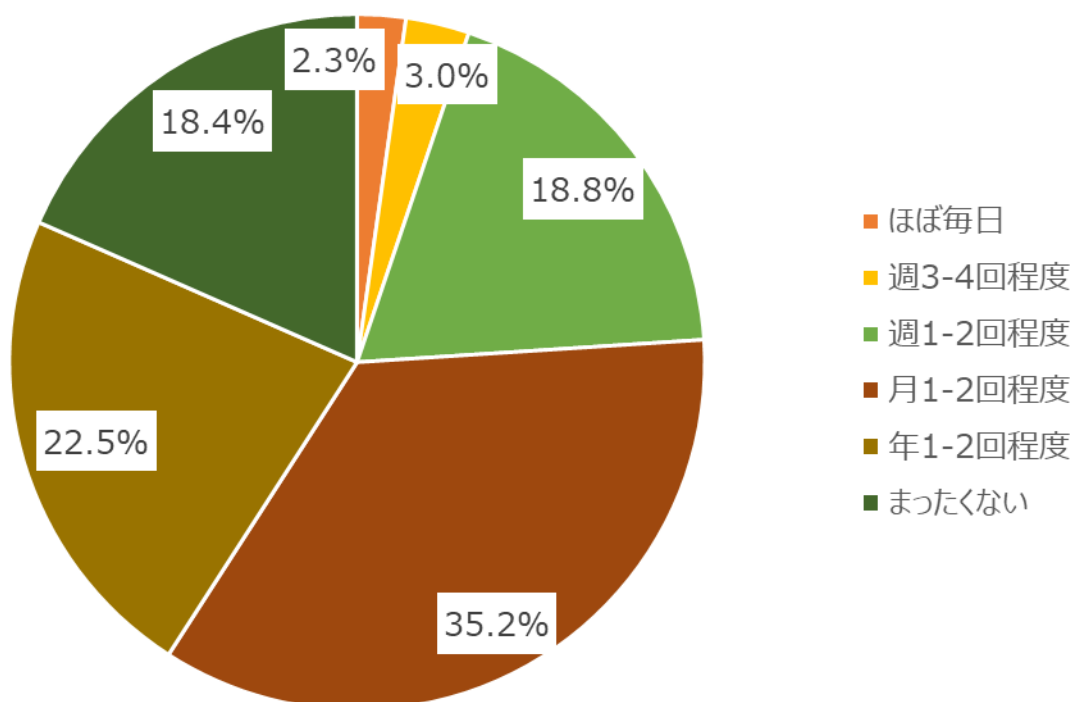


3-1.食品・食材を捨ててしまう（食品ロスにしてしまう）頻度

食品・食材を捨ててしまう頻度の問いに対し、「ほぼ毎日」から「月 1～2 回」と回答した方が 59.1%となり、食品ロスが月 1 回以上発生してしまっている家庭の割合は、前回から変化が見られませんでした。

「まったくない」と回答された方は 18.4%で、今までの調査で最も多い割合でした。

グラフ 3-1.食品ロス発生頻度 SA、n=7,576



【過去比較】3-1. 食品・食材を捨ててしまう（食品ロスにしてしまう）頻度

食品・食材を捨ててしまう頻度は、「ほぼ毎日」から「週 3～4 回」と回答した方の割合はほぼ変化がなく、「週 1-2 回」から「月 1-2 回」と回答される方の割合が減るという傾向が続いています。「まったくない」と回答された方がこの 2 年の間に大きく増えている点は大きな変化と考えます。

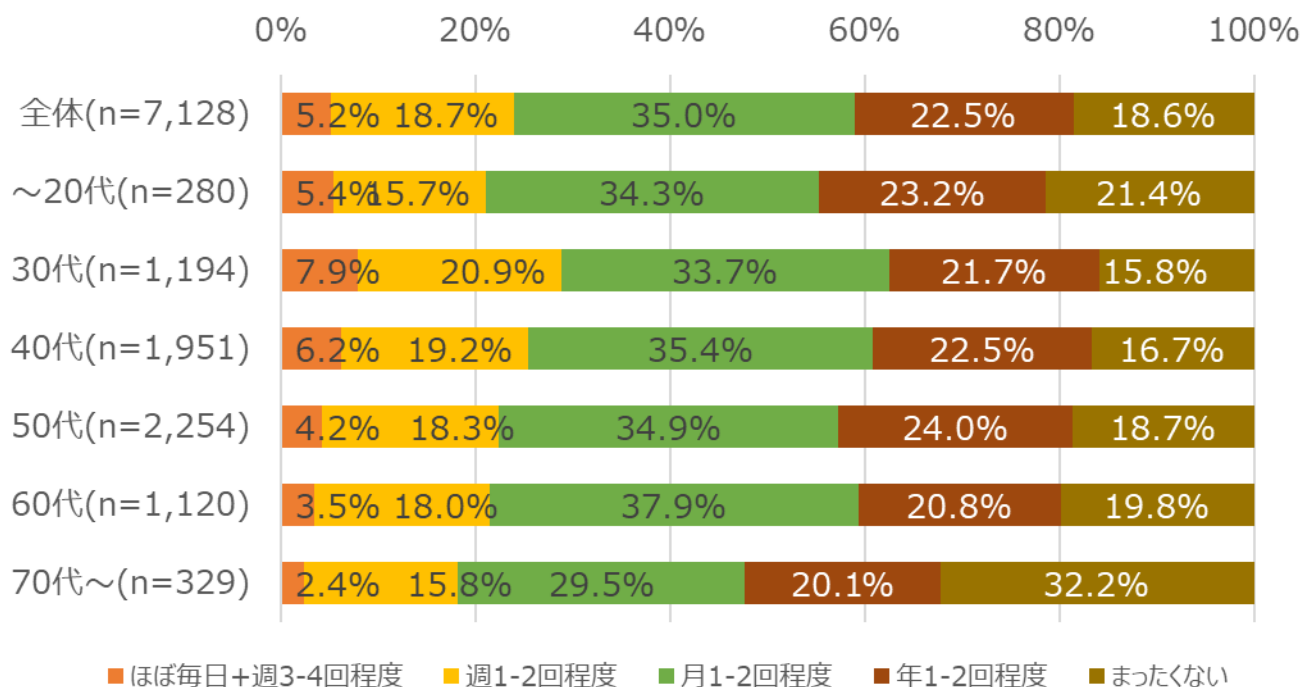
【過去比較】3-1.食品ロス発生頻度 SA、n 数は下表に記載

	2021年9月 n=	2021年1月	2020年7月	2019年7月	2021年9月－ 2019年7月増減
ほぼ毎日	7,576	8,979	6,990	6,357	0.3%
週3-4回程度	2.3%	2.3%	2.1%	1.9%	0.3%
週1-2回程度	3.0%	2.7%	3.2%	3.8%	-0.9%
月1-2回程度	18.8%	18.0%	20.1%	23.6%	-4.9%
年1-2回程度	35.2%	36.0%	36.5%	41.0%	-5.9%
まったくない	22.5%	23.8%	21.0%	22.9%	-0.5%
	18.4%	17.1%	17.1%	6.7%	11.7%

3-2. 食品・食材を捨ててしまう（食品ロスにしてしまう）頻度（年代別）

年代別の傾向については、大きな変化はありませんでした。若干～20代の捨ててしまう頻度が前回に比べて減っている点については、次回以降の調査で一時的な変化なのかを確認していきます。

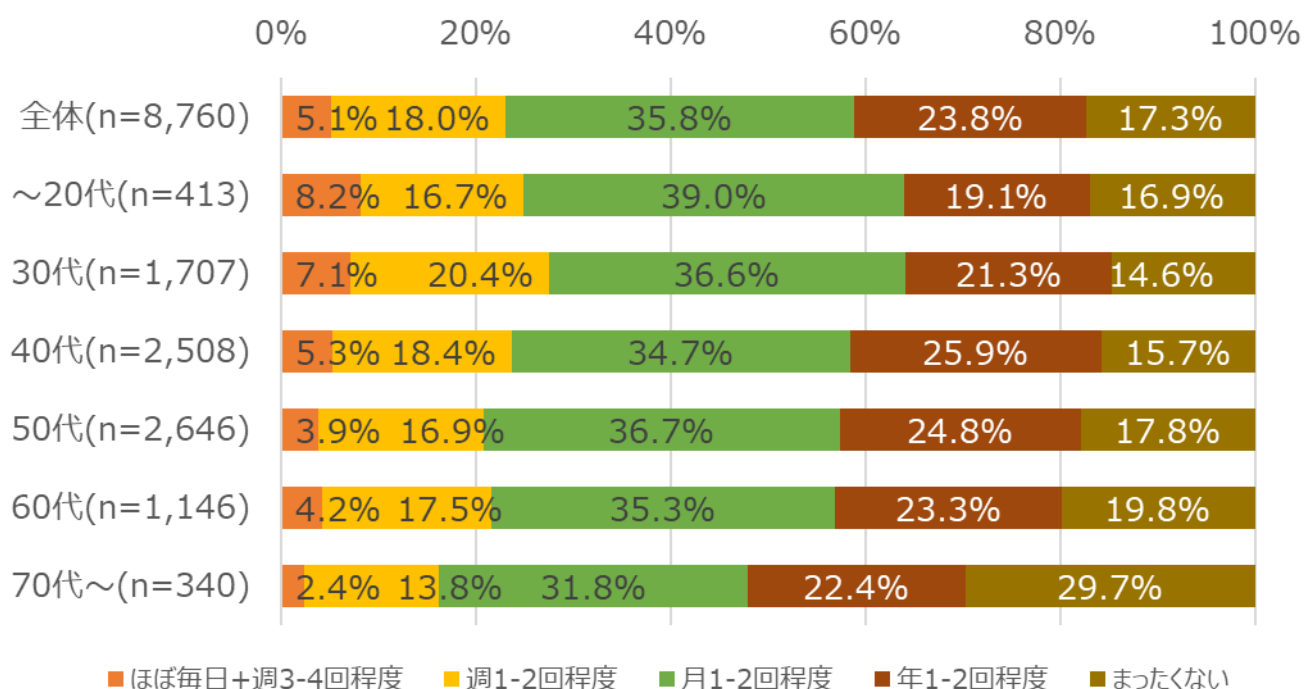
グラフ 3-2.食品ロス発生頻度（年代別） SA、n=7,128



【前回】3-2. 食品・食材を捨ててしまう（食品ロスにしてしまう）頻度（年代別）

前回も年代別の傾向については、大きな変化が見られませんでした。若年層ほど捨ててしまう頻度が高く、年齢層が上がるほど頻度が減り、「まったくない」と回答される方の割合も多い傾向です。

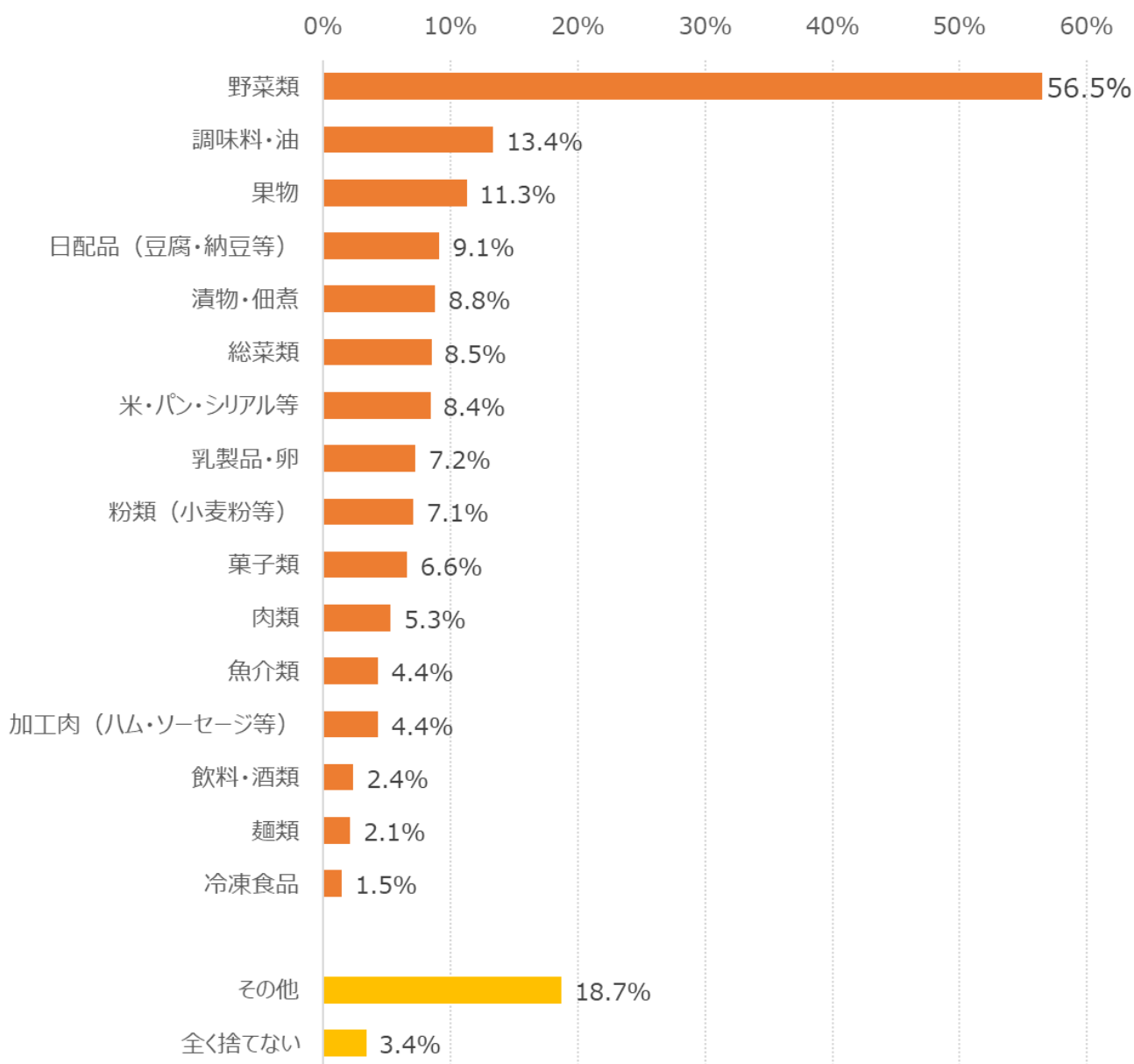
【前回】グラフ 3-2.食品ロス発生頻度（年代別） SA、n=8,760



4.捨ててしまいがちな食品・食材

捨ててしまいがちな食品・食材の種類については、最も多かったのは「野菜類」で 56.5%の回答割合でした。次いで「調味料・油」13.4%、「果物」11.3%、「日配品」9.1%という結果で、前回と順位の入れ替わりはなく、割合はいずれも前回より減少しています。「全く捨てない」という方は前回 3.8%だったのに対し、今回 3.4%とあまり変化は見られませんでした。

グラフ 4.捨ててしまいがちな食品・食材の割合 MA、n=7,576



*第二回（2020年7月）アンケートから「その他（FA）」「全く捨てない」の項目を追加

【過去比較】4.捨ててしまいがちな食品・食材

捨ててしまいがちな食品・食材の種類については「野菜類」をはじめ全般的に下がっていますが、「調味料・油」「果物」「漬物・佃煮」などの食品・食材については、前回（第三回・今年 1 月）調査時より割合が減少しています。「野菜類」「果物」については、季節によって捨ててしまいがちと回答される割合が、変動するものと推測しています。

【過去比較】4.捨ててしまいがちな食品・食材の割合

n 数は下表に記載

	2021年9月 n=	2021年1月	2020年7月	2019年7月	2021年9月－ 2019年7月増減
野菜類	56.5%	53.6%	57.3%	68.1%	-11.6%
調味料・油	13.4%	15.0%	14.5%	15.6%	-2.2%
果物	11.3%	15.0%	10.8%	17.4%	-6.1%
日配品（豆腐・納豆等）	9.1%	11.3%	11.1%	16.4%	-7.3%
漬物・佃煮	8.8%	10.6%	9.7%	14.5%	-5.6%
総菜・惣菜類	8.5%	8.8%	9.7%	13.4%	-4.9%
米・パン・シリアル等	8.4%	7.9%	8.8%	13.3%	-4.8%
乳製品・卵	7.2%	9.7%	8.6%	14.3%	-7.0%
粉類（小麦粉等）	7.1%	7.3%	7.2%	10.2%	-3.1%
菓子類	6.6%	7.0%	7.0%	10.9%	-4.2%
肉類	5.3%	5.9%	6.1%	13.5%	-8.2%
魚介類	4.4%	4.8%	5.2%	9.1%	-4.7%
加工肉（ハム・ソーセージ等）	4.4%	5.3%	4.8%	8.1%	-3.7%
飲料・酒類	2.4%	3.3%	3.0%	5.4%	-2.9%
麺類	2.1%	2.2%	2.5%	5.3%	-3.2%
冷凍食品	1.5%	2.1%	2.3%	5.0%	-3.5%
その他	18.7%	17.6%	17.6%	-	-
全く捨てない	3.4%	3.8%	3.2%	-	-

*第二回（2020 年 7 月）アンケートから「その他（FA）」「全く捨てない」の項目を追加

5.最近捨ててしまった食品・食材

最近捨ててしまった具体的な食品・食材は「きゅうり」10.7%で最も多かったです。次いで「キャベツ」6.3%、「パン・食パン」6.0%、「レタス」4.9%、「もやし」4.5%、という結果でした。今回は9月頭にアンケート調査を実施しましたが、1月の調査時と比較すると、上位にあがってきた食品・食材は7月に実施した際の結果に近い印象を受けました。季節によって食品ロスになってしまう食品・食材は変わるため、今後は春先に調査すると回答がどうなるかも調べてみたいです。

表 5.最近捨ててしまった食品・食材ランキング FA、n=7,576

順位	食品・食材	回答割合	順位	食品・食材	回答割合
1	きゅうり	10.7%	26	調味料	1.8%
2	キャベツ	6.3%	27	ヨーグルト	1.6%
3	パン・食パン	6.0%	28	ハム・ソーセージ	1.6%
4	レタス	4.9%	29	魚介類	1.5%
5	もやし	4.5%	30	豚肉	1.3%
6	豆腐	4.5%	31	佃煮	1.2%
7	玉ねぎ	4.0%	32	ゴーヤ	1.2%
8	トマト	4.0%	33	ジャム	1.1%
9	納豆	3.8%	34	かぼちゃ	1.1%
10	牛乳	3.0%	34	白菜	1.1%
11	大根	3.0%	36	ソース	1.1%
12	漬物	2.8%	36	果物	1.1%
13	にんじん	2.7%	38	りんご	1.0%
14	バナナ	2.6%	38	生姜	1.0%
15	長ねぎ	2.6%	40	煮物	1.0%
16	なす	2.6%	40	小松菜	1.0%
17	ご飯	2.3%	42	サラダ	0.9%
18	ドレッシング	2.2%	42	桃	0.9%
19	菓子・スナック菓子	2.2%	44	みかん	0.9%
20	小麦粉	2.1%	44	鶏肉	0.9%
21	惣菜類	2.0%	46	チーズ	0.9%
22	肉類	1.9%	47	梨	0.9%
23	卵	1.9%	48	ほうれん草	0.8%
24	じゃがいも	1.8%	49	すいか	0.8%
24	ピーマン	1.8%	50	油	0.8%

*回答数をもとに順位づけしているため、同じ回答割合でも順位が異なる場合があります。

【前回比較】5.最近捨ててしまった食品・食材

コロナ禍の影響により家庭内食機会が増加したという“暮らしの変化”が、捨ててしまったという回答割合全般の減少につながっているという状況は継続しているようです。前回（第三回・今年1月）の調査と比較すると上位になっていた「みかん」「白菜」など冬に出回る食材は軒並みダウンし、上位25品からも外れています。また、今夏きゅうりの価格は高かったにも関わらず、捨ててしまったという回答が多かった点は想定と異なる結果でした。

【前回比較】表 5.最近捨ててしまった食品・食材ランキング

FA、n=7,576

FA、n=8,979

第四回（2021年9月）			第三回（2021年1月）		
順位	食品・食材	回答割合	順位	食品・食材	回答割合
1	きゅうり	10.7%	1	みかん	7.2%
2	キャベツ	6.3%	2	きゅうり	7.1%
3	パン・食パン	6.0%	3	大根	5.2%
4	レタス	4.9%	4	豆腐	4.9%
5	もやし	4.5%	5	牛乳	4.9%
6	豆腐	4.5%	6	納豆	4.7%
7	玉ねぎ	4.0%	7	パン	4.7%
8	トマト	4.0%	8	白菜	4.6%
9	納豆	3.8%	9	キャベツ	4.6%
10	牛乳	3.0%	10	レタス	3.8%
11	大根	3.0%	11	漬物	3.4%
12	漬物	2.8%	12	もやし	2.8%
13	にんじん	2.7%	13	にんじん	2.7%
14	バナナ	2.6%	14	魚介類	2.7%
15	長ねぎ	2.6%	15	ヨーグルト	2.6%
16	なす	2.6%	16	ドレッシング	2.4%
17	ご飯	2.3%	17	肉	2.3%
18	ドレッシング	2.2%	18	りんご	2.2%
19	菓子・スナック菓子	2.2%	19	卵	2.1%
20	小麦粉	2.1%	20	トマト	2.1%
21	惣菜類	2.0%	21	ハム・ソーセージ	2.1%
22	肉類	1.9%	22	小麦粉	2.0%
23	卵	1.9%	23	ご飯	2.0%
24	じゃがいも	1.8%	23	バナナ	2.0%
24	ピーマン	1.8%	25	きのこ	1.8%

*回答数をもとに順位づけしているため、同じ回答割合でも順位が異なる場合があります。

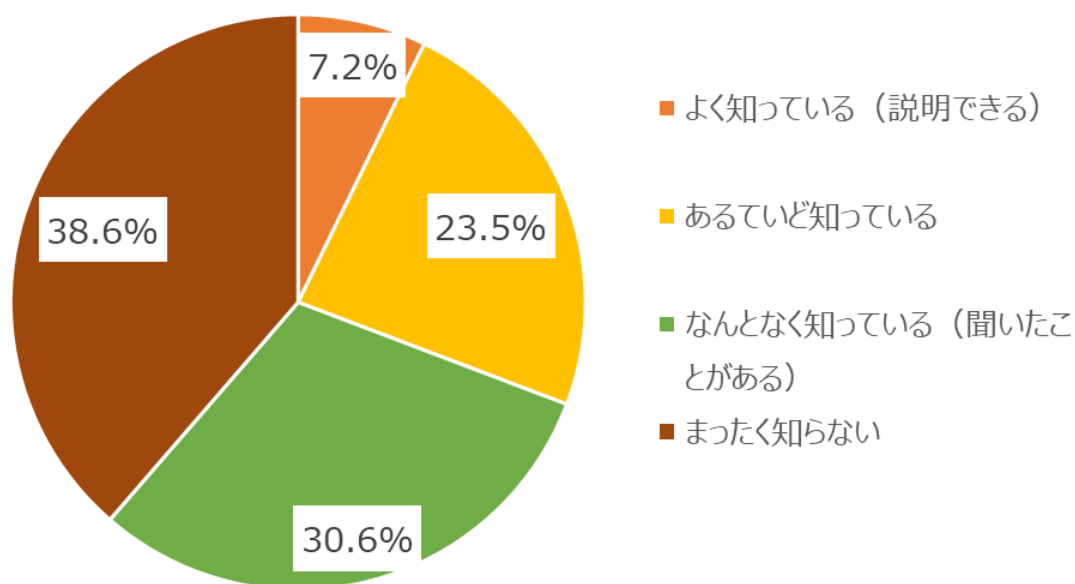
<以下設問には、子どもの方に回答いただきました>

※お子さまの年齢：18歳以下の回答のみ集計しています。

6.子どものSDGs認知率

学校教育でも教えられるようになったSDGsの認知率については、「よく知っている：7.2%」「あるていど知っている：23.5%」で、一定程度の理解を約30%の方が持っているという結果になりました。「まったく知らない：38.6%」という層もかなりいらっしゃり、言葉としてはある程度広まりつつあるものの、まだ全員が知っているというほどは、認知・理解が進んでいないともいえる現状が見られる結果でした。

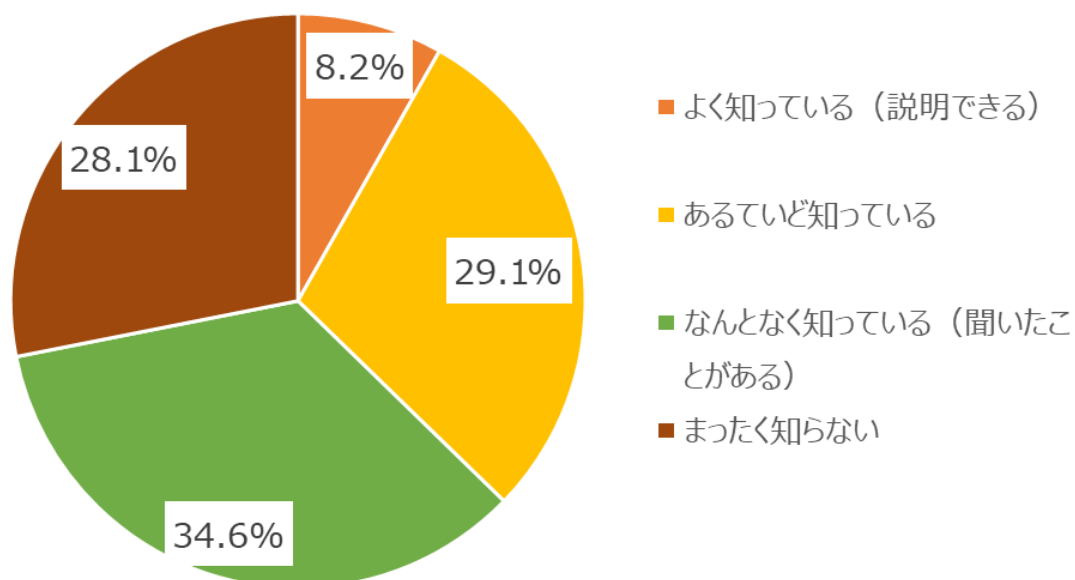
6.子どものSDGs認知率 SA,n=1,768



7.子どもの食品ロス問題認知率

食品ロスの認知率については、「よく知っている：8.2%」「あるていど知っている：29.1%」「なんとなく知っている：34.6%」でいずれもSDGsと比較すると認知率は高いと言える回答でした。「まったく知らない：28.1%」という層もいらっしゃり、大人の「まったく知らない：1.2%」とは大きな開きがありました。日常生活に近い食品ロス問題も、まだ子どもたち全員が知っているというレベルではないという現状だと考えられます。

7.子どもの食品ロス問題認知率 SA,n=1,768



8.子どもの SDGs／食品ロス問題認知率

6.子どもの SDGs 認知率と 7.食品ロス問題の認知率を比較すると、下記の通りそれぞれの認知率と理解の度合いには相関がありました。

SDGs\食品ロス問題	よく知っている (説明できる)	あるていど 知っている	なんとなく 知っている	まったく知らない
よく知っている (説明できる)	5.5%	1.5%	0.2%	0.1%
あるていど知っている	2.0%	18.6%	2.7%	0.2%
なんとなく知っている (聞いたことがある)	0.6%	7.6%	20.1%	2.3%
まったく知らない	0.1%	1.3%	11.7%	25.6%

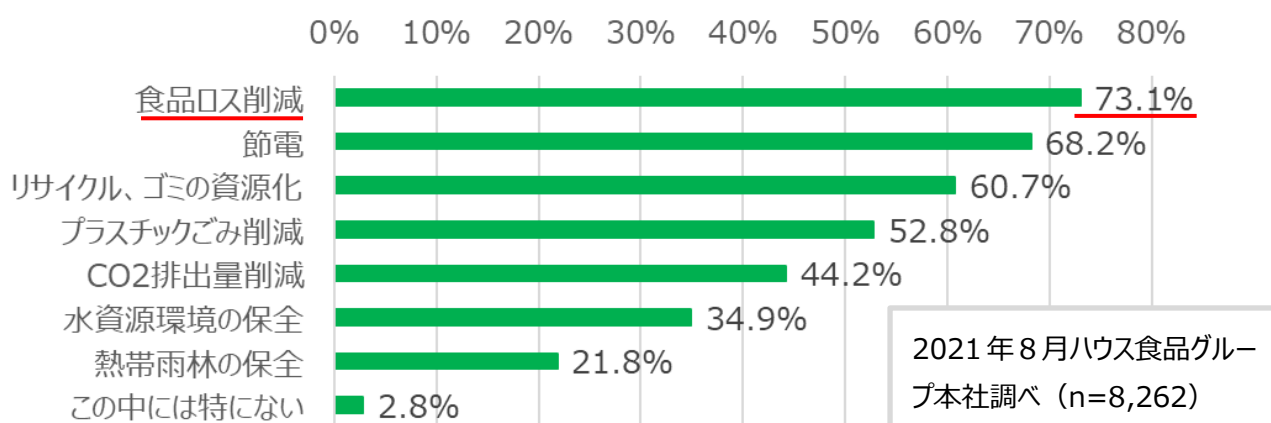
全体の認知率としては、SDGs の認知率 < 食品ロス問題の認知率だったことから、SDGs についての取り組みを知る・考えるきっかけとして、食品ロス問題を入口とすることができるのでは？と仮説を立てて今後の情報発信に繋げていければと考えています。

9.大人の年代別食品ロス問題認知率（かなり&ある程度）の伸び率

1-1.年代別認知率のうち「かなり知っている」と「ある程度知っている」の伸び率を見てみると、～20代と30代、40代の伸び率が高く、50代に追いつきつつあることが分かりました。（60代以上は前回も高く、今回もさらに上昇）

年代	今回	前回	今回-前回
全体	71.3%	65.7%	5.6%
～20代	72.9%	66.1%	6.8%
30代	67.5%	60.6%	6.9%
40代	68.3%	62.3%	6.0%
50代	69.6%	66.9%	2.8%
60代	79.6%	74.3%	5.3%
70代～	84.8%	77.1%	7.7%

7.子供の食品ロス認知率はまだ70%程度（かなり&ある程度の率は37.3%）で認知率が低いことや、8月に実施したアンケートでも関心のある環境問題として「食品ロス削減」が最も多かったことから、今後は親子で食品ロスについて考え、知っていただく活動や発信ができればと考えています。



【補足 1：第四回（今回） 基礎情報】

- 性別 （n=7,576）
男性：26.5%／女性：68.1%／不明・未回答：5.5%
- 年代 （n=7,119）※性別・年齢「不明・未回答」の方を除く年代構成比
10～20代：3.6%／30代：15.8%／40代：25.8%
50代：29.8%／60代：14.8%／70代～：4.3%
- Q6以降の子ども情報
有効回答数：n=2,114（うち、18歳以下 n=1,768）

【補足 2：第三回（前回） 基礎情報】

- 性別 （n=8,979）
男性：23.4%／女性：74.3%／不明・未回答：2.3%
- 年代 （n=8,760）※性別・年齢「不明・未回答」の方を除く年代構成比
10～20代：4.7%／30代：19.5%／40代：28.6%
50代：30.2%／60代：13.1%／70代～：3.9%

【補足 3：第二回（前々回） 基礎情報】

- 性別 （n=6,990）
男性：21.0%／女性：59.5%／不明・未回答：19.5%
- 年代 （n=3,350）※性別・年齢「不明・未回答」の方を除く年代構成比
10～20代：2.3%／30代：13.6%／40代：27.8%
50代：34.1%／60代：17.0%／70代～：5.2%

【補足 4：第一回 基礎情報】

- 性別 （n=6,357）
男性：21.6%／女性：69.9%／不明：8.4%
- 年代 （n=5,721）※年齢「不明」の方を除く年代構成比
10～20代：2.5%／30代：13.5%／40代：30.9%
50代：30.2%／60代：11.0%／70代～：2.0%